# ふるさとじまん

わたしのお気に入り

北海道 函館市

## 函館は，なぜか懐かしい

額賀康之
（昭和47年卒）

函館は，国内有数の観光地です。『日本三大夜景』『異国情緒』『グルメ』などにより毎年多くの観光客が訪れています。特に私が住んでいる西部地区函館山の麓には多くの観光資源があり，私にとっては表題のキャッチフレーズ（函館市観光部発行の観光案内リーフレットより）が大好きです。また，その町並みから映画やテレビドラマのロケ地として多くの場面に登場しています。そのため函館には「伝統的建造物群保存地区（でんけん地区）」があり，このエリアは異国情緒豊かな街の景観や建造物を保護している地区です。都市景観条例に基づき，西部地区都市景観形成地域を指定し，歴史性を生かした新たな創造と歴史的景観の保全が一体となった，調和のとれた町並みとなるよう，この地域の景観形成に努められています。「伝統的建造物群保存地区（でんけん地区）」と定められたのは，長く北海道の中心的役割を果たしていた函館という街の歴史的背景が大きく関与しています。

1859（安政６）年，函館は横浜，長崎とともにいち早く海外に門戸を開いたことにより，外国人が市街地に居留することとなり，現在の元町地区を中心に，教会や領事館などが建てられ，異国情緒豊かな町並みが形成されました。

その後，1907（明治40）年の大火で地域の大半を焼失しましたが，復興の際には，開港以来の異文化の流入と，その中ではぐくまれてきた市民意識をあらわすように，洋風様式や上下和洋折衷様式の民家などが数多く建てられました。この上下和洋折衷様式の建物は当時の外国文化の影響を反映しつつも，日本の建築様式と融合した独自のスタイルは現在においてもとても注目され，函館に訪れる観光客の皆様を魅了しております。

また，相次ぐ大火経験の中で，煉瓦造りや土蔵造りなどの防火造建築が取り入れられ，大正期に入ると鉄筋コンクリート造の建物も多く建てられました。

これらの建物は，現在も地域の歴史的な景観を特徴づけるものとなっており，特に赤レンガ倉庫群は，歴史的な建物を活用したレストランやショップが集まるエリアとして再生され，観光ガイドブックなどにも数多く紹介されており，函館観光の大きな目的の一つとされています。その他にも大三坂・基坂とそれをつなぐ港ヶ丘通り沿いには多くのリノベーションをしたショップや飲食店が点在しており，この地区は観光名所としても人気の教会群や洋館，坂道や石畳の街路などもあり，散歩をしながら気になる建物を探して写真を撮る観光も今は人気となっています。

いくつか函館の有名な伝統的建造物をご紹介いたします。まず１つ目は，「箱館カネサ佐々木邸」です。末広町15番６号に所在する平成29年に外観が復元された建物で，１階は和風で堅繁格子の出窓があしらわれた茶色ベースのつくりとなっており，２階は鮮やかなグリーンの洋風で縦長窓がきいた

１ 箱館カネサ佐々木邸

2 パン屋さん「tombolo」

上下和洋折衷様式の建物です。こちらの建物は屋根を支えている「持ち送り」と「軒蛇腹」の形状も特徴的なので，ぜひ注目してみてください。また，リノベーション後，2019年に駄菓子屋風の店として開業しております。

次に，ご紹介するのは「tombolo」という，現在はパン屋さんとして再利用されている伝統的建造物です。住所は元町30番10号と，函館で有名な坂の一つでもある「大三坂」に位置する建物です。こちらは，鮮やかなクリーム色が映える建物となっており，大正時代に建てられた上下和洋折衷の木造住宅です。１階は和と洋がまじりあった不思議なデザインで，位置の低い左窓も特徴的です。２階はヨーロッパ風で，淡いブルーの窓枠の配色も美しいです。また，上下和洋折衷の建物が多い函館の西部地区は，ロシアのウラジオストクの町並みを参考にして作られたと言われています。余談ですが，先日開催された「開港５都市景観まちづくり会議2023函館大会」で基調講演をされたロシア極東大学函館校の倉田有佳教授は，開港がもたらしたものとして各都市でのパン文化の始まりを紹介。函館では開港当初ロシア領事館に招かれるなどした一部の日本人がパンに触れていたが，明治に入り，外国人と交流のあった日本人が製造に参入し「限定的な体験から身近な食べ物になった」と述べております。

３つ目にご紹介するのは，観光名所としても大変有名な「旧函館区公会堂」と「旧北海道庁函館支庁庁舎」です。こちらは，どちらも函館の景色を一望できる「元町公園」に隣接しております。

「旧函館区公会堂」は，函館大火によって焼失した住民の集会所であった町会所（まちかいしょ）を再建しようと，豪商相馬哲平氏や住民からの寄付などを元手に，1910（明治43）年に完成した建物です。西洋スタイルを日本の建築技術で表現し，ヨーロッパとアジアの建築が融合した洋風木造建築で，国の重要文化財にもなっております。修復によって2021年に蘇った現在の青灰色と黄色の配色は，明治時代のオリジナルのカラーを再現したもので，とてもインパクトのある外観となっております。また，内部に関しては，根窓や棟飾柵，破風（ペディメント），円柱，柱頭飾とどれをとってもハイカラな造りとなっており，館内の装飾も，外国人の指導を受けることなく，洋風建築物の視察などを通して自ら考案した職人の高い技術を垣間見ることができます。中でも皇族が実際に利用したこともある２階の貴賓室は，外国製の壁紙やシャンデリア，暖炉などが用いられており，内装の高貴な雰囲気に目を奪われます。

「旧北海道庁函館支庁庁舎」も函館大火によって消失いたしましたが，1909（明治42）年に現在の建物が完成いたしました。正面中央の玄関部の４本のエンタシス風の柱と，三角形の切妻破風が印象的で，道指定有形文化財となっている伝統的建造物です。かつては，函館市写真歴史館，函館市元町観光案内所，元町公園パンフレットブースとして活用されてきましたが，2022年８月にJolly Jellyfishという飲食店がニューオープンしました。函館の古写真が飾られた２階ホールはイートインスペースになっていて，お店自慢のステーキピラフなどを食べながら，ゆっくりと過ごすことができます。

今回ご紹介したものは商店や公共施設として地域に根差したものですが，その他にも数多くの和洋折衷の民家は現在も個人の住居として使われています。ぜひ足を運び西部地区を散策してください。

函館はなぜか懐かしい。

3 旧函館区公会堂
4 現在コンサートなど行われる大広間
5 貴賓室
6 旧北海道庁函館支庁庁舎